



九条はらまち



「はらまち九条の会」会報 No.410

2024(令和6)年6月23日(日)発行 沖縄慰霊の日

■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できます。■結成は2005年12月。会員は南相馬市原町区を中心に344名。■会費は年千円。隔月で会報を発行しています。

2024年総会 その① 本会の“今後のあり方”を話し合う

「九条の会をなくさないで」「南相馬市のまとめた会にすれば」

- 6月16日(日)南相馬市マルチメディアホールを会場に、「2024年総会」と「映画『医師中村哲 荒野に灯ををともす』上映会」を開催しました。
- 「総会」は午後1時～2時30分、35名の出席。平田慶肇会長は「世界で戦禍が絶えることはありませんが、日本は9条に守られて表向きは平和だが油断はできません。今NHK朝ドラ『虎と翼』の憲法第14条など注目ですね」と挨拶。
- 議事は小川尚一さん議長で進められ活動は早坂吉彦事務局長から、会計は井上由美さんから説明があり、2023年報告・2024年計画案も承認されました。
- 議事として早坂事務局長から次のような提案がありました。



挨拶する
平田慶肇会長

「5月1日の会報No.408でも提案しましたが、本会は発足から18年間活動してきましたが、事務局員が高齢化し、若い人への世代交代が進まず、今後の活動について大きな不安があります。今後の本会のあり方をどうするか会員の皆さまからのご意見を伺いたいと提案いたします。」

議長の小川尚一さん



活動を報告する
早坂吉彦事務局長



すると数名の方から次のような意見が出されました。

《総会会場で、会員さんからのご意見》

- ◆事務局からの提案は、九条の会がなくなるようで本当にショックで悲しくて涙が出ました。この会は平和を守るための最後の砦です。いっぺんつぶしたらもう再建はできません。遠くの方でもやめないでいます。どうか会をなくさないでください。(原町区 若松蓉子さん)
 - ◆私は元々小高九条の会員でしたが、会は大震災でなくなりました。これからは“はらまち”にこだわらないで憲法九条を護る灯をともし続けたい。現実の政治にしっかり向き合い勉強していかないとやられてしまう。しっかりやっていきたい。(男性)
 - ◆この会に魅力がないから若い人がいないし市議会議員も出席は一人だけ。知恵を働かせ10年後消滅していないことを祈る。(男性)
 - ◆この会場に若い人の顔ぶれがない。今の若い人は政治に関心もなく、ニュースも新聞も見ないし危機感もない。若い人に引き継いでいくことが大切です。私はこの会のために何でもお手伝いしたいと思います。(女性)
- ＜※事務局より 会員には若い人も多くはないが20～40代の方が10名ほどいます。実は、今年の総会でも若い方も出席していて、議事録署名人になり写真を撮影していただいています。＞



▲熱心な意見が出された総会。
出席は35名でした。

《ハガキで寄せられた「今後の本会のあり方」についての意見》

□私は 2007 年に東京・町田市から原町に移住し入会しました。平田会長のもと、「憲法」冊子復刻版の発行や九条の会報を発行し続け、感謝感動です。自由だからこそ平和があり、平和だから幸せがある。原発事故で避難し生活破壊は憲法 13 条の人格権の侵害だと私も現在裁判闘争中ですが、司法は本来の姿を取りもどしてほしい。九条の会もがんばっていきましょう。

(原町区 山田俊子さん)

□今、私たち大人に必要なのは自分の生きる姿勢に疑問を持たないこと。今の世の中、未来を思うと答えの見えない不確実な要素に満ちています。だからこそ昭和、平成を生きてきた大人が子どもと若者のロールモデルとして生きる姿を見せる必要があるのではないのでしょうか。

総会で、若松蓉子さんのおっしゃった言葉が胸に残っています。「九条の会を存続してほしい。やめたらもう一度作るのは難しい。小さくても続けてほしい。戦争が身近で起っている今だからこそ九条の会の火を消さないでほしい。これは私からのお願いです」戦争体験のある方が高齢者になり諦めの心境になりがちですが、語り伝えるという重要な役目が残っています。

「南相馬九条の会」として小高、原町、鹿島が一体となって九条の会を存続してほしいと願っています。(原町区 高橋美加子さん)

会員さんからの嬉しい手紙

“事務局の皆さんへのエールです”

総会の時は、お疲れ様でした。No.1
日頃忙しい日常の中、事務局の方々の頑張りで、毎回新しい情報を知る事ができ、少し賢くなった気にさせてくれて、とても有難いと思っています。

今の日本に、戦前のような不穏な空気を感じてしまいます。戦争がアチコチの国に飛び火している気がして、とても不安になります。それでもなんとか日本は今平和でいられるのが、憲法 9 条のおかげであると、それをもっと知らせていくことが必要なんだと思う。

そこを考えると、私達会員の年代はまだ話せるのではないのでしょうか。それを強みに若い人達に伝える機会を作ったら。

私も昔そうだったように、「何かしたい、でも何をどうすれば…」という時

があったと思う。そんな時、年配 No.2
の方が頑張っている姿を見て、何か手伝える事があつたらと、後を付いてまわった事を思い出します。



皆さん自信を持っていいと思います。田中徳雲さんのような若い方もいます。私達「昔の人」にはそういう役割が有るのだと思います。そして若い人が何か見つけてくれたら、そのエネルギーは素晴らしいものです。スマホの SNS なんかには負けてはいられません。

まともの無い文ですみません。これは事務局の皆さんへのエールです。

2024. 6. 18

(原町区 70代 女性より)

○総会でのご意見を聞いて事務局員一同より○

来場された、多くの皆様より貴重な御意見をいただきました。

事務局員一同、改めて本会にお寄せいただいている会員の皆様の御期待やエールを身にしみて感じております。

全くの素人集団として声を上げ、以来18年間、憲法九条を護りたいという一心で、ささやかながら護憲活動をしてきました。

九条の理想を灯し続ける困難さに直面しながら、次の世代がどのように引き継いでくれるのか、正直見通せない状況です。

しかし皆様の真情あふれる御意見をうかがいながら、かすかな光が見えて来たようにも感じました。ありがとうございます。

なお、事務局会で今後の方策などさらに検討したいと存じます。

事務局員一同